

..... 編集後記

◆ 春の足音が間近となってきました。今月号は1月号に引き続いて特集「黄河地下水プロジェクト(その2)」の原稿4編と個人投稿原稿6編です。中国、オーストラリア、フィリピンと、海外情報が盛りだくさんです。以下、各報告の概要を紹介します。

◆ 特集に関する報告では、まず玉生志郎ほか、中国最大の穀倉地帯である華北平野で生じている地下水の水位低下域と第四系の岩相との相関性を報告しています。また、口絵には黄河の流れや水試料採取の様子を掲載しています。次いで三浦勝利さんは、中国黄河流域の河川水・地下水の不足の状況について最新の情報を紹介するとともに、その対策としての南水北調や節水対策について解説しています。一ノ瀬俊明さんは黄河水資源の聞き取り調査の一環として、黄河下流の河南省洛陽から三門峡、そして胃川流域の西安を廻り、蘭州に至る鉄道旅行記を書いています。中国の庶民生活がよくわかります。最後に安川香澄さんは中国における地中熱利用の現状を報告しています。そのなかで、使用した地下水の地下還元的重要性を指摘するとともに、済南市の地熱基地などを紹介しています。

◆ 石原舜三さんは、オーストラリア西部イルガン地塊を訪れて、最近提唱された始生代花崗岩の分類法について紹介しています。始生代(40億~25億年前)の酸化還元状況が考察されています。表紙、口絵とあわせてご覧下さい。

◆ 牧野雅彦さんほかは、フィリピン・レイテ島で生じた大規模斜面崩壊の重力探査を行い、フィリピン断層付近に顕著な負の重力異常を見出しました。その解釈

に当たっては、いくつかのモデルが想定されていますが、より確実なモデルを構築するためには掘削データなどが必要であると指摘しています。

◆ 鈴木庸平さん・須甲武志さんは、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する基礎研究として、地球微生物のエネルギー獲得戦略について解説するとともに、岩石および放射性核種で呼吸する微生物について紹介しています。これらの微生物のエネルギー獲得方法には驚かされます。

◆ 坂野靖行さんは、中国地質博物館に寄贈された豊鉱物標本と、その寄贈に関連した行事の紹介をしています。日中友好の架け橋が一つ増えたことを、心から喜びたいと思います。

◆ 渡辺 寧さんはシリーズ「地質調査のパートナー(2)」として金鉱床探査に欠かせない道具、カチョについて紹介しています。

◆ 小松原 琢さんは、最近出版された「新潟県中越地震 新潟の大地 災害と生活」の書評の中で、今回被害にあった中山間地の魅力と将来性に関する記述に対して、高い評価をしています。

◆ ある読者の方から地質ニュースに対して、次のような有り難いコメントを頂きました；“技術士一次試験(応用理学部門)の受験勉強のために大いに活用させていただきました。地質ニュースは素人の私にも何とか概要がつかめるようなわかりやすさで、大変助かりました。”これを励みにして、多くの読者の方々に役立つ最新情報を発信できるよう、編集委員会一同、努力していきたいと思ひます。今後とも、ご愛読の程、よろしくお願ひ申し上げます。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・

光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第630号	2007年	2月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
	2007年2月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年(IYPE)に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2007 Geological Survey of Japan